

時代「近世」

江戸時代の阿知須は、廻船業で栄えた港町でした。

藩政期の阿知須浦は、萩藩の保護のもと、住民の1/3が漁業や廻船の水夫を生業とする廻船の浦で、天保年間には60隻ちかい廻船を所有していました。

廻船経営には「賃積船」と「買積船」の2種類がありました。

「賃積船」とは運賃輸送を生業とするチャーター船の事です。

「買積船」とは消費地の価格差を利用して差額利潤を得る為に、各地の寄港地で商品を購入したり売却したりとする、商業船の事です。

阿知須の賃積船業は萩藩の廻米輸送を担っていましたが、北陸、山陰から瀬戸内海を商圈とする買積船業者も多く、富を築いた廻船問屋が軒を連ねていました。

これらの廻船は、はじめは米を運んでいましたが、後には、宇部の石炭を運ぶようになりました。



廻船のしくみ